



(ナレーション)

理化学研究所の佐倉 統（さくら おさむ） チームリーダーと福住 伸一（ふくずみ しんいち） 研究員は、新型コロナウイルスの感染拡大後、急速に増加したテレワークが、人間に与える影響の調査・改善策の策定を進めています。



(ナレーション)

「テレワーク」は「tele」と「work」を組み合わせた造語で「離れた場所で働く」という意味です。今、このテレワークが急増しています。その結果、作業に適していない環境で働かざるを得ない状況が生まれ、身体疲労やメンタルストレスなどの問題を抱える人が増えています。



(ナレーション)

研究チームは、テレワークに適した場所を、作業の「種類」、「場所」という観点から分析しました。

作業の種類	場所	作業の種類		作業の場所		作業の頻度		作業の場所	
		資料作成	調査・情報収集	アイデア・企画	会議	資料作成	調査・情報収集	アイデア・企画	会議
オフィス	固定席	○	○	○	○	○	○	○	○
	フリーアドレス	○	○	○	○	○	○	○	○
	会議室	○	○	○	○	○	○	○	○
	書斎	○	○	○	○	○	○	○	○
	キッチン	○	○	○	○	○	○	○	○
	カフェ	○	○	○	○	○	○	○	○
	共有スペース	○	○	○	○	○	○	○	○
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○
	在宅	○	○	○	○	○	○	○	○
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○
自宅	書斎	○	○	○	○	○	○	○	○
	キッチン	○	○	○	○	○	○	○	○
	リビング	○	○	○	○	○	○	○	○
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○
	在宅	○	○	○	○	○	○	○	○

(ナレーション)

まず、業務でどんなことをしているか、作業をカテゴリ分けします。資料作成、調査・情報収集、アイデア・企画構想などです。

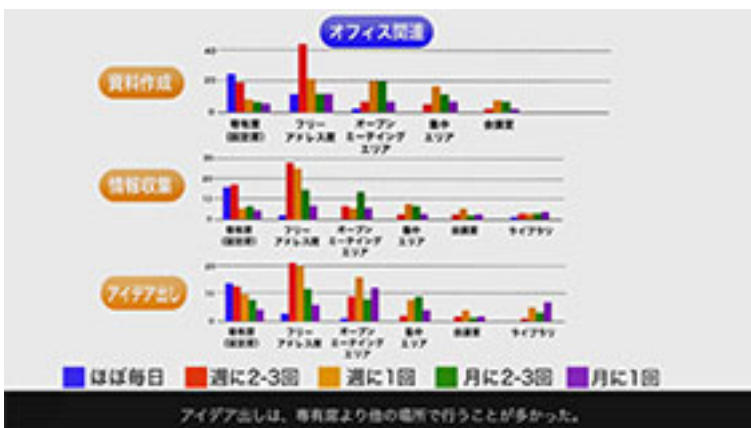
次に、作業をする場所をカテゴリ分けします。オフィスの場合、固定席、フリーアドレス、会議室など。自宅の場合、書斎、キッチンなどです。

これらについてその作業をするのに適した場所はどこかを記入していただく形で、アンケート調査しました。



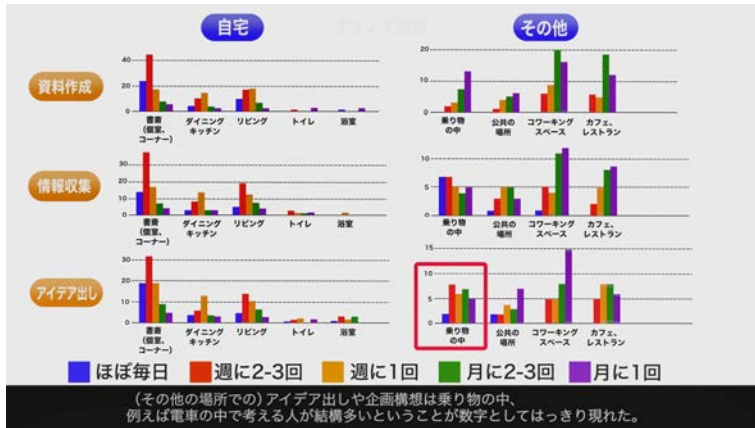
(ナレーション)

2020年2月時点で、約180人から回答があり、そのデータを集計・分析しました。



(研究者インタビュー)

オフィスの場合、(作業をする場所は) 専有席とフリーアドレスが多いだろうと想像していた。その通りであったが、資料作成とアイデア出しで比率が変わっていた。アイデア出しは、専有席より他の場所で行うことが多かった。



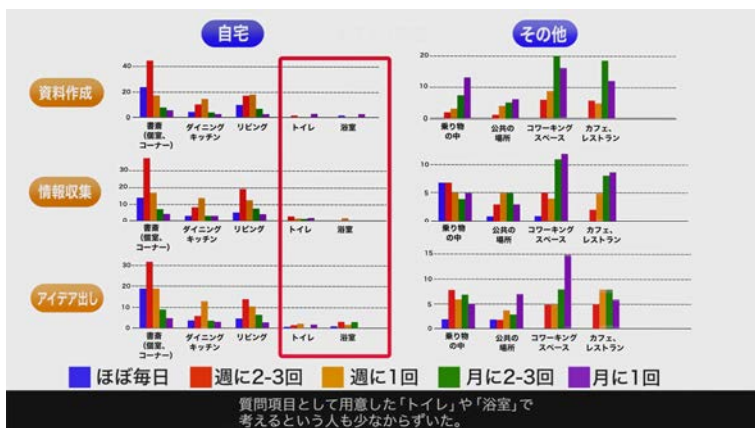
(研究者インタビュー)

その傾向は、オフィスだけではなく、自宅やその他の場所でも同じだった。(その他の場所での) アイデア出しや企画構想は乗り物の中、例えば電車の中で考える人が結構多いということが数字としてはっきり現れた。



(ナレーション)

また、図書館などの公共の場所、カラオケボックスなどの回答もありました。



（研究者インタビュー）

質問項目として用意した「トイレ」や「浴室」で考えるという人も少なからずいた。  
仕事（作業）の種類によって、作業する場所が多様であることがわかった。



（ナレーション）

今後、この調査を国内外に広く展開し、国ごとに比較検証していきます。そして規格の数値目標や効果を測定するための指標を定めます。

最終的に、作業内容に適した作業場所を提案するための技術報告書を作成し、国際規格として提案することを考えているのです。



（研究者インタビュー）

昨今 いろいろな観点から「多様化」ということが言われている。  
仕事のスタイルも一律である必要はない。

（作業場所などを）指標として明確にし、雇用者と被雇用者が（その指標を）合意することによって、職場（一つの部署）だけでなく、（会社）全体の生産性を高めていくことができる。

そうすると、個人が時間を自由に使えるようになる。

そして、（最終的には）社会全体が幸せになることにつなげていきたい。

終わり